

# 伐った竹を活用して地球温暖化に少しでも待ったをかけたい！

特定非営利活動法人かいろう基山 松原幸孝

## ○ 活動の背景

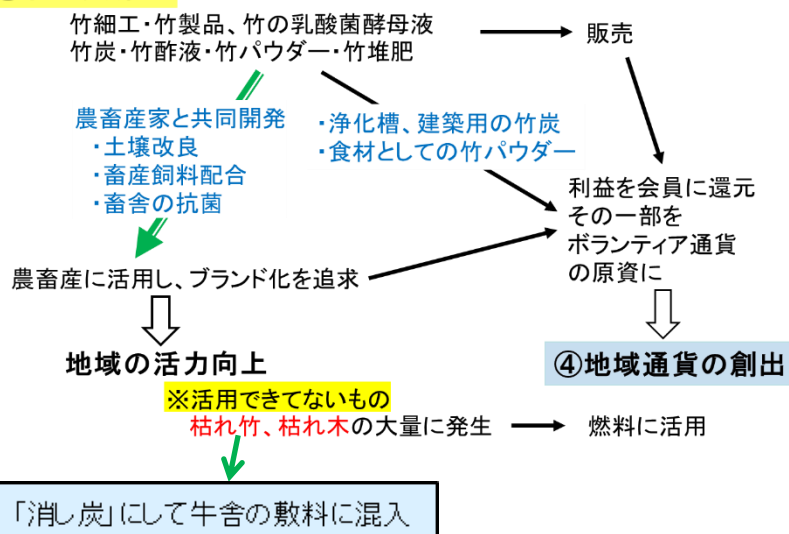
- ・里山が孟宗竹の侵食により災害に弱い山となっている。
- ・だから孟宗竹を伐って、そこに広葉樹等を植樹して、育て、災害に強い山作りを実施
- ・この思いだけでは団体を存続させてはいけない。
- ・時間、労力、そこにかかるお金は、すべて自分持ちです。  
補助金、助成金を頂きながら、手だしを出来るだけ少なくしていますが、それでも長続きできない。
- ・結構不意のお金が必要となります。お金がないと何も出来ない。
- ・そこで、竹が資源になるので、資源化事業を模索。

## ○ 資源化事業の変遷

- ・2004年の設立当初より、竹炭を焼いたり、竹製品を作って販売
- ・2012年から事業として資源化を実施。竹炭の商品化、竹パウダーの製造販売  
しかし、これだけでは、伐った竹のほんの少ししか資源化できないで、殆どを伐った場所に伏せていました。ところが伐った竹を支え杭として斜面に伏せていましたが、その杭が腐れて伐った竹が谷に崩れ落ちるとい現象が発生しました。これでは危ないので、伐った竹の大半を運び出すようにしました。大変な労力です。なんとかこの労力の意義づけをしたいということで、伐った竹をたくさん使う資源化を模索
- ・2015年佐賀県の事業を使って、基山町及び基山町唯一の牛の肥育農家と協働で、伐った竹をたくさん使う事業として、竹をチップにして、枯れ竹で作ったポラス竹炭とを使って牛ふん堆肥「基山の力」作りを開始しました。

## 2015年(平成27年)基山町さが段階チャレンジ交付金事業(緑の ➡ ➡ 部分)

### ③竹の資源化



### 土壌改良剤「基山の力」

(肥料取締法上、名称は「牛ふん堆肥」ですが竹チップのバージョンアップ型です) 竹にはたくさんの乳酸菌と酵母が棲んでいます(竹パウダー 1 g 中、乳酸菌 3.2 億個、酵母 2.4 億個)。それらを利用し、「基山の力」を作っています。まず、おがくずと細かな竹チップ、そして枯れ竹で作った竹炭(ポラス炭)を牛舎に敷きます。そこに牛がふん、尿をします。畜産農家はその敷料をある期間(2W 間)で交換していきます。交換した敷料は堆肥場に運び、

攪拌して発酵を促進します。たくさんの乳酸菌と酵母のお陰で短い期間(約2ヶ月)で牛のふん、尿が分解され、臭わない堆肥となります。その堆肥を田畑に入れると土壌が改良され、美味しい米や野菜を作れる田畑へと変貌します。なお、堆肥の成分分析を行い、シアン、カドニウム、クロム、水銀等の有毒物質、残留農薬がないことを確認しています



この堆肥が、2025 年(令和 7 年)3 月 14 日 第 3 回佐賀県 FUNBAL(ふんばる)堆肥コンクールで最優秀賞を受賞しました。

そして、基山町がこの堆肥を基山町の農地に使用した際は半額補助するという事業を昨年度から開始しました。

こうして、自団体が継続して活動していくため、自団体が長く存続するため、資源化事業に取り組んできました。かいろう基山は設立から今年で 23 年目になります。これらの活動が認められ、2024 年(令和 6 年)4 月 26 日に『緑化推進運動功労者内閣総理

大臣表彰』を受賞しました。これまでも社会のためにやってきましたが、これからは、もっと社会のためにとの思いで、『地球温暖化を抑制する活動』に力を入れて行こうと思っています。

**北海道で 40 度を超える気温です。地球がおかしくなっています。このままで良いはずはありません。**

○ これから力を入れてやっていく事項

### ● CO2 の吸収をよくする活動

・森を守り、森を育てる活動：森が元気になれば光合成が活発になり、CO2 の吸収量が大きくなります。

#### 森林整備実績



森を破壊している孟宗竹を伐り、広葉樹等を植樹…現在 5.7ha ←年間 1,200 本の伐竹を継続、併せて市民を啓発して一緒にやる人を増やす。基山町が今年度から森林環境譲与税を使用して、「里山保全の担い手育成研修会」を弊社団体に委託実施

・農地を守り、農地を育てる活動：竹チップと竹炭で作る牛ふん堆肥「基山の力」を使って、元気で美味しい米、野菜作りの増進こちらも光合成が盛んになり、CO2 の吸収が多くなります。

政府目標：2050 年までに有機農業の取り組み面積の割合を 25% に拡大、基山町の目標 75ha、「基山の力」で 1.66ha～7.4ha まで可能

### ● CO2 の排出を抑える活動：牛ふん堆肥「基山の力」は、コンポストの基材に最適です。



・家庭用段ボールコンポスト：生ごみを燃やすゴミに出すことのない生活

燃えるゴミの 4 割、重量的には 7 割が家庭から出る生ごみだそうです。

これを燃やさなければ、CO2 の発生を 7 割減らせます。また、お金も得します。基山町では、2017 年 9 月から基材に使用しているが、実施者増が遅いの

で、昨年度から弊団体の事業として実施。全家庭への普及を目指す。

・コンビニコンポストの研究：昨年一年間、賞味期限切れの食材を分解できるのか？を木箱を使って実施。生ごみよりも消化が遅いが、消化できることを確認。今年度は、木箱を段ボールに、食材粉碎機の開発などもして、実用化の目処を付けたい。これによりコンビニが出す CO2 の排出を 1/100 以下にできるので、温暖化の抑制に大いに効果があると同時に、CO2 排出量取引もでき、企業収益にも繋がると思料されます。

### ● C に固定化する炭づくり…竹炭、ポーラス竹炭、木炭の製造・販売